

信実代つて先導し、伏聲進み行在所より信本館野口弘平より入らせ給ふ下。
奉迎便取初ノ日程は出雲崎、小木共に三ツ社の新待傑より見込んで斥下あり
へたが、五月廿六日の船待を至し日好きた志し事したるも以て出雲崎、伏聲館の故、日
夜に夜更、五月十九。

十八日、厄齋殿法華寺十念中不地、旗本(原意忠)、赤坂、寺上江、柏倉、屋野藤
兵衛太兵衛一泊。

十九日、柏崎殿伏聲館、三日海川、米山の絶壁より信通、鉢崎(原意忠)寺を徑し
井崎一泊。

二十日、柏崎町殿伏聲館、望井、湯田(原意忠)、五徑て、今所信本館福永方一泊。
廿一日、今所殿伏聲館、長浜、有馬川(原意忠)茶屋ヶ原寺、伏聲館、小惣ありて午後三時

谷止の横河原寺方一泊。
廿二日、金川八時各之殿伏聲館、信原、為崎(原意忠)、能生、鬼伏、梶屋、寺に付小
惣ありて午後四時迄、糸魚川、大所、大野屋、相沢、荒太、市一泊。

○「西野傳記」

女の後、鬼伏、梶屋、おの、後、小林所跡に口左の銘碑を遺したるに云々。

順徳天皇御駐蹕之御所

明治三十八年三月吉日

梶屋、有志者、遺之

順徳天皇御駐蹕之御所

大正十三年十月

津本村鬼伏に遺之

○「西野傳記」

故女、西野、滅、糸魚川、町にて七年、七月十七日、順徳天皇御駐蹕之御所に接する
や、町、女、室、立、有志の相、於、閑、か、水、杉、本、直、樹、氏、が、因、縁、の、故、を、世、に、お、ぼ、る、こ、と、な、り、て
同、所、に、駐、蹕、す、(所、の、名、を、志、す、事、を、記、す、こ、と、な、り、て、廿七日、新、妻、を、想、出、し、九、水
共、新、妻、の、御、幸、は、一、夫、を、都、念、も、女、水、日、給、し、女、聞、く、こ、と、は、出、来、ぬ、と、の、指、合、を、り
しが、五月、十日、御、幸、の、日、程、表、表、さ、し、て、同、所、に、伏、聲、館、の、新、立、を、り、し、を、以、て、
有志者、四方に奔走して、銘、碑、を、遺、す、を、し、殊、に、表、表、も、信、原、寺、に、遺、して

依座船付水竜丸に郷し十時廣原村下流の山岸には着船、此處にて暫時所多日船を
 りせり水しが、大坂府七番出江村本新は屬官還卒を率いて舟運し京都府中
 と交代して廣原中上十時廣原村の行在所に着御、同所にて俤久進り力京
 都府紀事以下由兼大坂府、舟運出江以下俤礼を許した。
 俤年宣流上陸子行儀送御考の御座を行ひ行程(見)にて水無殿宮へ俤列着御
 間上禮、運行あらせられた。

當日舟運より水無殿宮へは九カ田り田運あらつた。
 順徳院天皇御遷座御祭式時間等別紙之通り奉祭帳着用多可
 不之此段相違也

明治七年六月十二日 奉送儀 橋本五郎権助
 水無殿宮御祭帳中

(別紙)
 順徳天皇御遷座御祭帳

六月十三日 午前十時 廣原村

六月十四日 午後二時 同
 午前八時 同
 午後一時 廣原村

十三、午前九時水無殿宮に前ては、俤宮前前力の儀奉典あり舟運儀は禮向と奉し、
 後鳥羽、土佐門五天皇に今日順徳天皇の御遷代を舟運儀は禮向と奉し、
 奉し、次舟運儀は廣原村の行在所より廣原代と舟運、午後二時本宮
 へ着御、俤宮前前力の儀奉典あり舟運儀は禮向と奉し、

午後二時廣原村本宮へ着御

此の儀式、俤宮前前力の儀奉典あり舟運儀は禮向と奉し、
 俤奉典あり舟運儀は廣原代と舟運、午後二時本宮へ着御、
 俤宮前前力の儀奉典あり舟運儀は禮向と奉し、

此間於木ノ板子に俤禮と奉し、
 次、五郎権助、俤宮前、新宮、廣原

500

7

終

